

ダンス授業における ICT 活用の有用性研究  
-生徒の鑑賞能力に着目して-

お茶の水女子大学大学院 前期博士課程 2年  
篠原陽

【1. 研究背景・目的】

近年、学校現場において情報通信技術 (Information and Communication Technology: ICT) の普及が進んでいる。平成 29 年、30 年、31 年に改訂した小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の総則には「情報活用能力の育成を図るため、各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ること」(文部科学省, 2018) と示されており、学校において ICT 環境を整え、それを活用した学習の充実を図ることが明記されている。また、第 3 期教育振興基本計画では、学習者用のコンピュータや大型提示装置、超高速インターネットの整備など学校の ICT 環境の整備の加速化を図ることが明記されている。

これまでダンス授業においてビデオカメラやタブレット端末等の ICT 機器を利用した授業事例や教育効果が報告されている。体育授業における ICT 機器活用のメリットは、学習者の技能習得や意欲的な学習活動などをねらいとして、効果的に動きの可視化が図れることである。本研究では ICT 活用による学生の身体表現の向上を目的とした授業実践を報告するとともに、授業アンケートを生徒に行い分析することで、中等教育及び後期中等教育におけるダンス授業の ICT 活用の有用性について検討することを目的とする。

【2. 研究方法】

関東圏内にある私立高等学校の 3 学期体育授業(2024 年 1 月～3 月)を対象とした。

担当教員は筆者自身で、受講者は女子生徒(第 2 学年約 220 名)であった。

単元全 5 時間分の授業映像記録をとり、授業の感想やこれまでのダンス経験に関する質問を含むレポートとアンケートをテキストデータとして調査対象とした。

【3. 研究結果】

本授業では、「ダンス MV づくり」として、カメラを用いて振付・構成・撮影・編集までを含めた映像作品づくりを行った。最終授業で映像作品の発表会を行い、感想とアンケートを回収した。本研究の授業内容は表 1 の通りである。

アンケートでは、授業の感想のみでなく、普段使用している電子機器および用途についての質問をしたところ、使用用途に「映像、動画を見る」が一番多い回答が得られた。次いで、多く得られたのは「連絡(コミュニケーション)をとる」であり、3 番目に「写真や動画を投稿、共有する」であった。その他にも「写真や動画を加工、編集する」などの回答も一定数見られ、生徒の普段の生活からも、動画や映像を見たり、加工、共有することが身近にあることが示唆された。

3 学期の授業内容について、「ダンスの映像を撮ることは楽しかったですか。」という問いに対して、8 割以上の生徒の「そう思う」、「まあそう思う」という回答を得られた。またその理由として「自分のダンスがどう見えているのか客観的に見るいい機会だった」という回答が複数に見られ、生徒自身が客観的に自分たちの踊りを見ることを肯定的に捉えていることがわかった。このように、ダンス授業における ICT の積極的な活用は有用である可能性が考えられる。

表 1. 授業単元計画

	1	2	3	4	5	6
目標	有酸素運動の理論を理解し、自己の体への気づきを深めること、また能力に応じて全身運動を行うことができる。		テーマ別グループを決め、それぞれに表現を深めて映像作品にまとめる。互いの良さを認め合いながらイメージや動きを出しあい、気持ちを合わせて踊ることができる。また、衣装・音楽・画面を自分たちで考えて、一つの作品を仕上げ発表し、相互評価することができる。			
単元名	エアロビクスダンス 創作ダンス (導入)	エアロビクスダンス 創作ダンス (自由課題)	エアロビクスダンス 創作ダンス (自由課題)	エアロビクスダンス 創作ダンス・ 撮影	エアロビクスダンス 創作ダンス・ 撮影まとめ	映像発表会
学習内容	ダンス発表会 映像鑑賞会	エアロビクスダンス	エアロビクスダンス	エアロビクスダンス	エアロビクスダンス	エアロビクスダンス
	エアロビクスについて説明	映像鑑賞 (ダンス ONE プロジェクト)	グループ創作 中間発表	グループ創作 ・撮影	映像	映像発表会
	エアロビクスダンス	グループ創作				
	グループ決め・曲選択					

表 2. 楽しかった理由(一部抜粋)

恥ずかしさもあったが自分のダンスがどう見えているのか客観的に見るいい機会だったから
普段は見ているものを自分たちで1から作るのが楽しかった
自分たちの踊りを客観的に見ることが面白かった
構成や編集の工夫を考えるのが面白かったから
みんなでアイデアを出し合いながら映像を撮ることができたから。
自分のは恥ずかしかったけどみんなを見るのは楽しかったから
編集をして場面の切り替えやグループに分かれてのパートごとなどがうまくできたから。

主要参考文献

小島理永, 岩居弘樹(2018). ダンス創作過程における表現向上に向けた ICT 活用の有用性研究. 大阪大学高等教育研究, 2018, 6, p.15-25